

山口明日香『森林資源の環境経済史』（慶應義塾大学出版会、二〇一五年）

田中，醇
九州大学大学院：博士前期過程

<https://doi.org/10.15017/1807812>

出版情報：エネルギー史研究：石炭を中心として. 32, pp.243-248, 2017-03-24. 九州大学附属図書館
付設記録資料館産業経済資料部門
バージョン：
権利関係：

書評特集にあたって

本号では書評特集として、山口明日香著『森林資源の環境経済史』（慶應義塾大学出版会、二〇一五年）を取り上げることとする。同書を執筆した山口明日香氏は、現在は名古屋市立大学大学院経済学研究科・経済学部の講師に就任されているが、まだ慶應義塾大学の大学院生時代より、足しげく九州大学記録資料館へも資料調査に来訪されていた。同書では、その資料調査の際に蒐集された資料群も活用されており、記録資料館に収蔵されている資料群の価値を広く紹介するためにも、同書は格好のテキストとなっているためである。

記録資料館産業経済資料部門の収蔵資料は、前身の石炭研究資料センター時代に蒐集された炭鉱関係の資料群が中心となっているが、その中から炭鉱で使われた坑木に着目しているのが特徴である。書評で詳しくは取り上げられることになるが、山口氏の問題関心が近代日本の環境と木材にある中で、炭鉱での木材の使用が大きな分析対象となったからである。

山口氏が記録資料館へとしばしば調査に来訪されていたのは、三浦壮氏（現・鹿児島大学法文学部准教授）が記録資料館の助手・助教の頃であった。その三浦壮氏が経営史学会西日本部会の担当幹事となっている

こともあり、経営史学会西日本部会の二〇一六年度九月例会（於、九州大学箱崎キャンパス経済学部棟六階大会議室）の第二報告として、本書の書評会が行われた。

司会は、九州大学大学院経済学研究院准教授であり、山口氏の大学院の先輩でもある鷲崎俊太郎氏が務められ、最初に山口氏より簡単に同書の紹介があった。それを受け、九州大学大学院の田中醇氏および菊池美幸氏による書評が行われ、山口氏およびフロアを巻き込んだのディスカッションとなった。当日は、環境史、日本経済史、炭鉱業史など様々な視点からの議論が繰り広げられた。

その中から、田中醇氏・菊池美幸氏という二名の評者に、当日の書評およびディスカッションを踏まえての原稿をお願いした。書評会の様子を完全に再現することは出来ないにしろ、同書を巡って繰り広げられた議論の一端でもお伝えできれば幸いである。

（宮地英敏）